

破裂遠位前大動脈瘤による治療を受けた患者さんへ

地方独立行政法人大牟田市立病院では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ先までご連絡ください。
また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。**本件研究の対象者に該当されると思われる方またはその代理人の方で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は、問い合わせ先までご連絡ください。**なお、その申し出は研究成果公表前までとなりますのでご了承願います。

研究課題名	破裂遠位前大脳動脈瘤に関する当院での治療結果の検証
研究責任者	地方独立行政法人大牟田市立病院 脳神経外科 責任者名： 山下 伸
研究の目的と意義	破裂遠位前大脳動脈瘤（以下、RDACA 瘤という。）は、破裂脳動脈瘤の 1-9%を占める比較的まれな病変とされ、脳出血の併存による重症化が問題となる。当院で経験した RDACA 瘤症例につき、後方視的に検証する。 * この研究は、大牟田市立病院倫理委員会臨床研究専門部会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施しています。
調査データ 該当期間	2010年1月から2023年1月までの情報を調査対象とします。
研究の方法 (使用する試料等)	●対象となる方 受診科：地方独立行政法人大牟田市立病院脳神経外科 対象疾患：破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血患者のうち 破裂遠位前大脳動脈瘤で治療を受けられた患者 ●研究の実施期間 病院長の研究実施許可日から2024年4月30日まで ●利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します ・ 患者背景：性別、年齢、病歴、 ・ くも膜下出血発症部位、H&Hgrade、Fisher 分類 瘤の大きさ、脳出血の併存、Dome/Neck 比 ・ 治療方法、治療薬 ・ 術中・術後の合併症、塞栓状態 ・ 検査データ、画像データ ・ 入院前、発症時、退院時、3ヶ月後の mRS

情報の保護	研究に関わる関係者は、対象となる患者さんの個人情報およびプライバシーの保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。 対象となる患者さんの個人情報は、個人情報が特定できないよう加工を行い、その個人情報を復元できる情報（対応表）は、研究責任者が保管します。
外部への情報提供	外部への情報提供は行いません
試料・情報の提供の辞退に関するお申し出先・お問い合わせ先	地方独立行政法人大牟田市立病院 研究責任者：山下 伸 臨床研究管理室 電話：0944-53-1061（平日 9 時～16 時）
備考・その他	